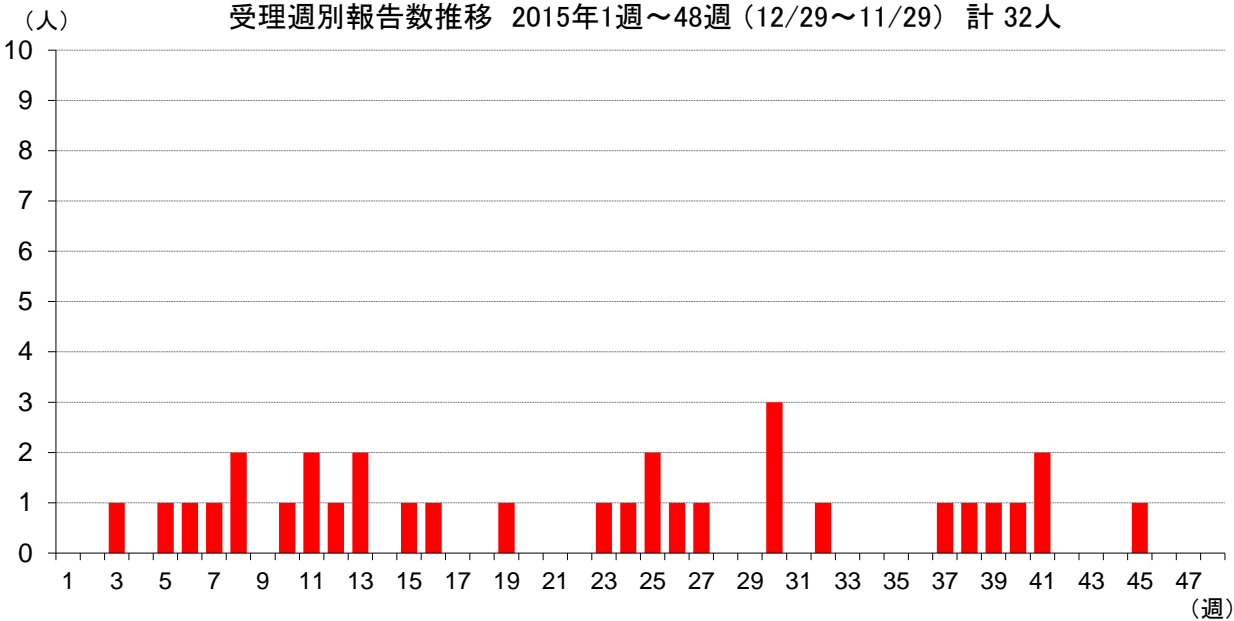


# 都内における風しんの発生状況（2015年第1週から48週）

東京都健康安全研究センター

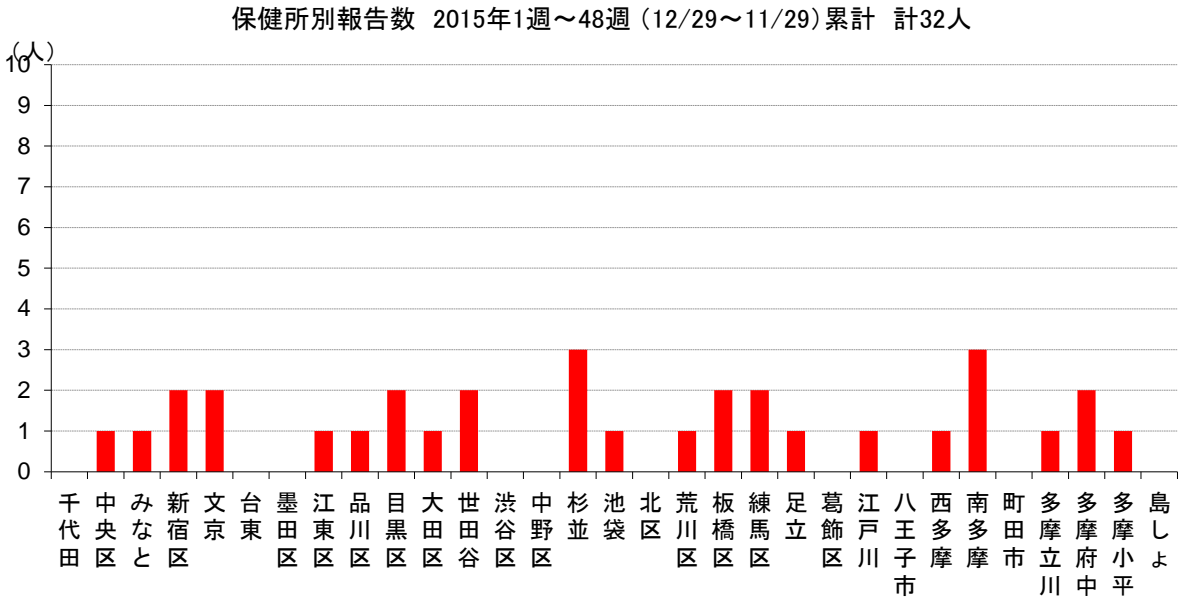
## 1. 患者報告数

2015年48週までの報告数は32人であった。特にピークはなく1人から3人の散発的な報告だった。



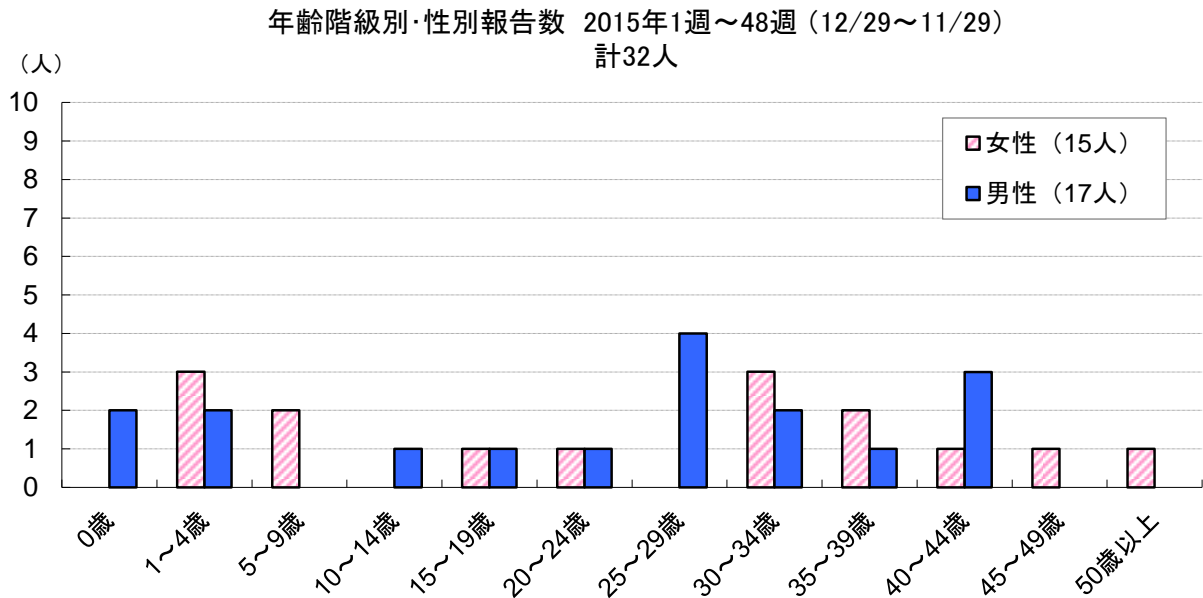
## 2. 保健所別報告数

31保健所中21保健所から、1人から3人の報告があった。



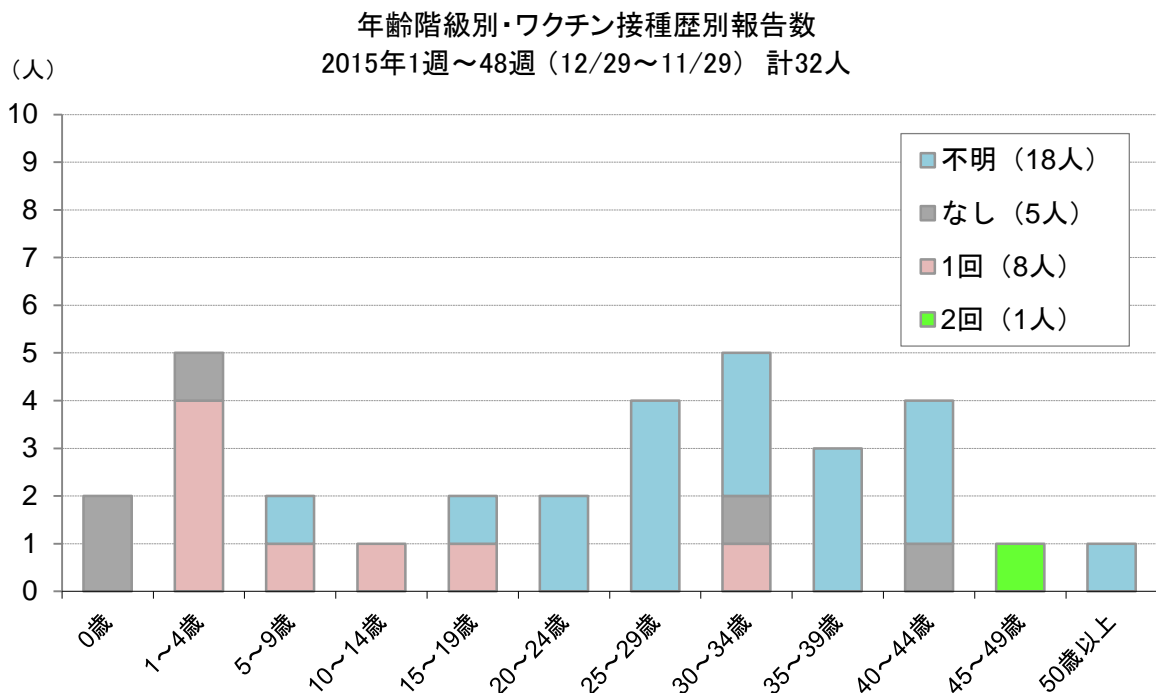
### 3. 年齢階級別・性別報告数

性別では男性 17 人、女性 15 人と男女の差はあまりなかった。年齢階級別・性別でみると、報告数が多いのは 25 歳から 29 歳の男性（4 人）、40 歳から 44 歳及び 30 歳から 34 歳の男性、1 歳から 4 歳の女性（各 3 人）であった。



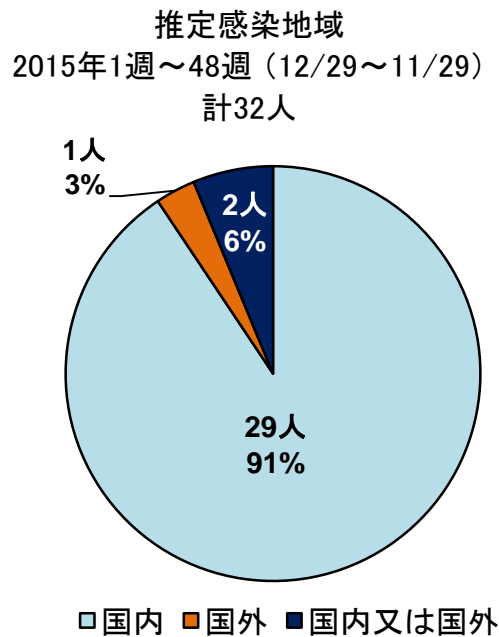
### 4. 年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数

ワクチン接種歴別でみると、2回接種が 1 人、1回接種が 8 人、接種なしが 5 人、不明が 18 人であり、接種なしと不明を合わせた割合は 72%であった。20 歳以上では接種不明が多かった。



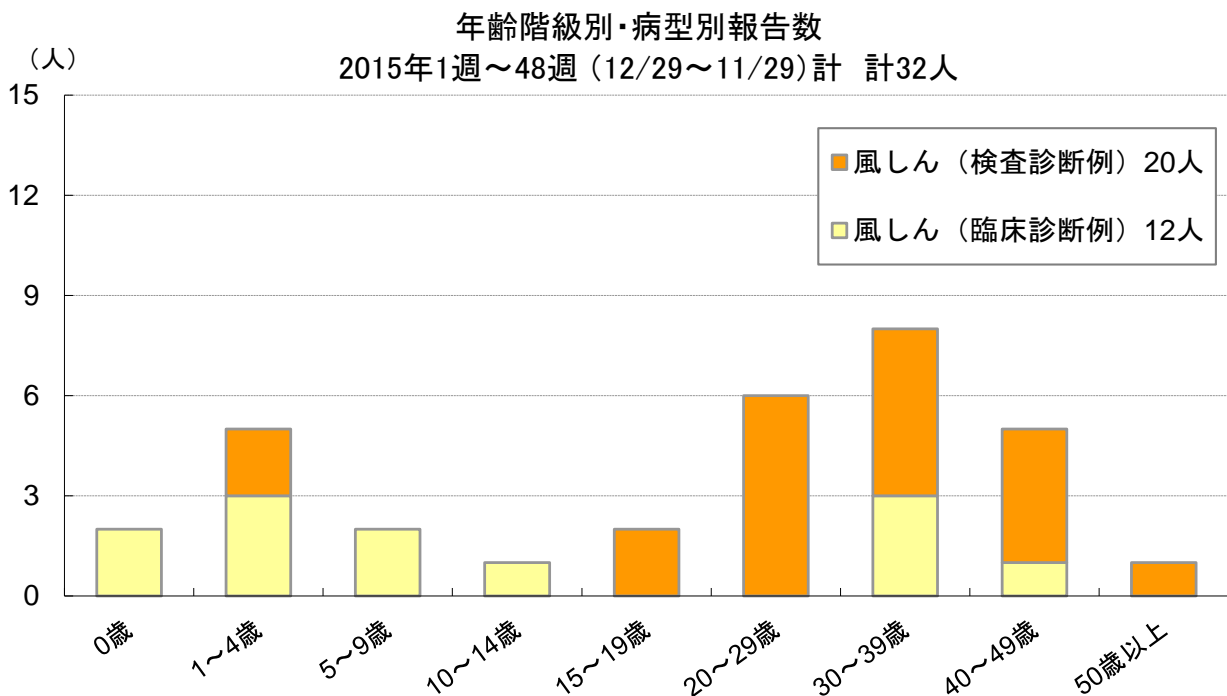
## 5. 推定感染地域

推定感染地域は「国内」が 29 人 (91%)、「国外」1 人 (3%)、「国内又は国外」が 2 人 (6%) であった。



## 6. 年齢階級別・病型別報告数

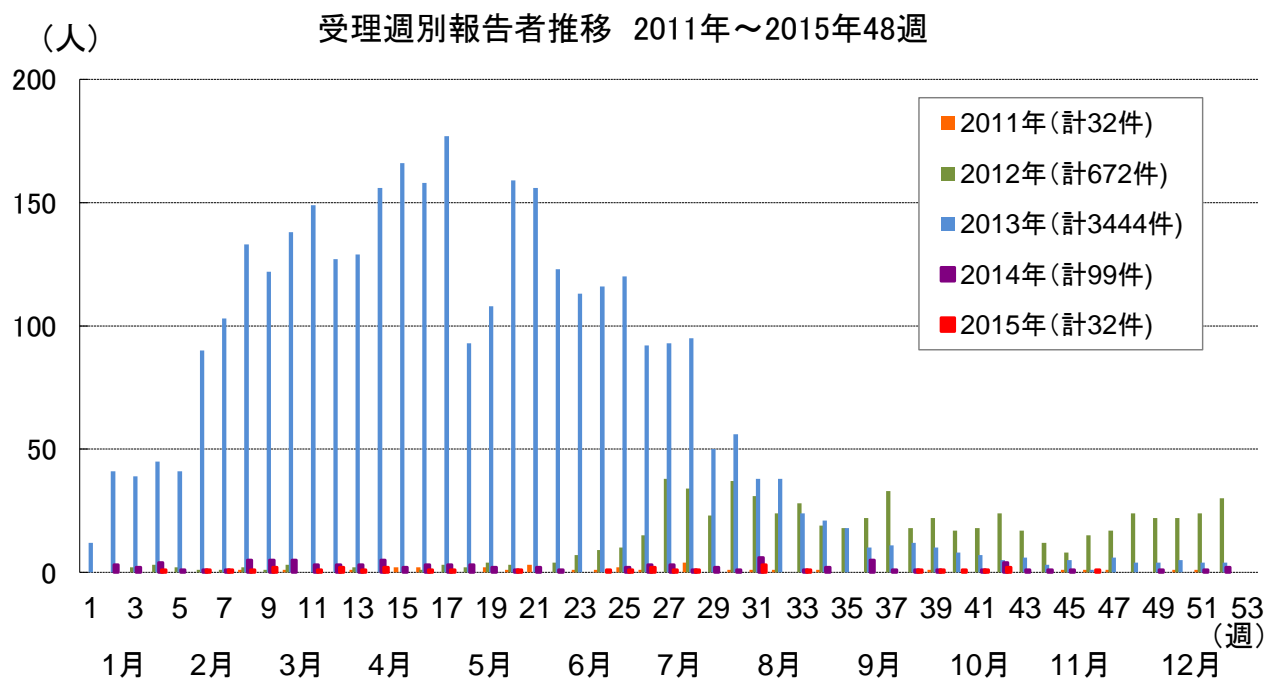
病型別でみると、検査診断例が 20 人、臨床診断例が 12 人と検査診断例の方が多かった。また年齢階級別・病型別でみると、14 歳以下は臨床診断例が多く、15 歳以上では検査診断例が多かった。



<参考>

1. 風しん患者報告数の推移（2011年～2015年48週）

過去5年間でみると、2012年23週（6月）頃から報告数が増え始め、翌2013年17週（4月）には1週間で150人以上の報告がなされる程の大流行となった。その後徐々に減り始め、48週（11月）頃から2014年24週頃までは一定数の報告が続いた。2015年は流行前の2011年と同等に推移している。



2. 先天性風しん症候群（CRS）患者報告数の推移（2011年～2015年48週）

先天性風しん症候群（CRS）患者が東京都で報告されたのは、2013年（13人）、2014年（3人）の2年間であった。2015年は48週までの報告はない。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年(～48週)
東京都	0	0	13	3	0
全国	1	4	32	9	0
(報告があった自治体)	群馬	兵庫(2)、 埼玉・香川(1)	大阪(5)、愛知・ 三重・和歌山(2)、 栃木・千葉(1)	福島・千葉・ 新潟・大阪・ 兵庫・島根(1)	

※2005年から2010年までの5年間も、東京都でのCRS報告はない。